

学生の確保の見通し等を記載した書類

学生の確保の見通し等を記載した書類

【目次】

(1) 新設組織の概要

- ①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）・・・P 3
- ②新設組織の特色・・・P 3

(2) 人材需要の社会的な動向等

- ①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析・・・P 3
- ②中長期的な入学者対象人口の全国的、地域的動向の分析・・・P 4
- ③新設組織の主な学生募集地域・・・P 6

(3) 学生確保の見通し

- ①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果
 - (ア) 既設組織における取組とその目標・・・P 7
 - (イ) 新設組織における取組とその目標・・・P 9
 - (ウ) 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数・・・P 1 0
- ②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）
 - (ア) 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性・・・P 1 0
 - (イ) 競合校の入学志願動向等・・・P 1 1
 - (ウ) 新設組織において定員を充足できる根拠等・・・P 1 2
 - (エ) 学生納付金等の金額設定の理由・・・P 1 2
- ③先行事例分析・・・P 1 2
- ④学生確保に関するアンケート調査・・・P 1 2
- ⑤人材需要に関するアンケート調査等・・・P 1 4

(4) 新設組織の定員設定の理由・・・P 1 5

(1) 新設組織の概要

①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）

新設組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地 (神戸キャンパス)
兵庫医科大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程	2人	0人	6人	兵庫県神戸市中央区 港島1丁目3番地6

②新設組織の特色

- (1)看護学研究科は、保健・医療・福祉及び社会の変動に対応して、生命と人権を尊重し、看護学を中心とした学際的な知識に立脚し、看護ケアを創造し、実装し、発展させることができる人材並びに看護実践の場における教育、看護研究者の養成に携わる人材を育成し、人々の健康と QOL の向上及び看護学の進歩・発展に寄与することを使命としている。
- (2)看護学研究科は、先駆的・創造的に高度看護実践できる能力と看護ケアを創生・発信できる能力を身につけ、看護学を中心とした学際的な知識と高度看護実践能力に立脚し、看護学と医療の進歩・発展に貢献できる看護実践者・研究者・教育者を育成することを目的としている。博士後期課程では、看護実践開発科学分野を設け、看護学の専門的知識と技術に立脚し、看護現象を科学的に解明する教育・研究能力をもって看護の場を変革できる人材を育成することを目的としている。
- (3)博士後期課程を担当する専任教員は、全員が本学看護学部並びに修士課程（博士前期課程）を兼務するため、学士課程・修士課程（博士前期課程）・博士後期課程に渡る看護学教育を俯瞰できるようにしている。また、各教員の専門分野に基づく看護実践や研究実践の場として、兵庫医科大学病院をはじめとするフィールドを多数有しており、グローバルかつ学際的な教育力と研究力を有する教員組織となっている。

(2) 人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

(1) 全国の社会動向分析

本邦の急速な少子高齢化の進展、多疾患併存患者、重度の要介護者や認知症高齢者の増加などは、医療や介護のニーズの質の変化をもたらしている。内閣府の令和 5 年版高齢社会

白書では、令和 4 (2022) 年 10 月時点の総人口は 1 億 2,495 万人。65 歳以上の人口は 3,624 万人、高齢化率は 29.0%となっている。65 歳から 74 歳人口は 1,687 万人、総人口に占める割合は 13.5%、75 歳以上の人口は 1,936 万人、総人口に占める割合は 15.5%で 65~74 歳の人口を上回っている。総人口が減少する中、高齢化率は令和 2 (2020) 年の 28.6% (3.5 人に 1 人が 65 歳以上)、令和 19 (2037) 年に 33.3% (3 人に 1 人が 65 歳以上)、令和 52 (2070) 年には 38.7%となり 2.6 人に 1 人が 65 歳以上、75 歳以上は 25.1%となり約 4 人に 1 人が 75 歳以上になると推計されている。

また、標準的な将来生命表に基づくと、平均寿命は令和 2 (2020) 年には、男性 81.56 年・女性 87.71 年であるが、令和 52 (2070) 年には男性 85.89 年・女性 91.94 年と伸長する。

【資料 1】

(2) 兵庫県の社会動向分析

本学が位置する兵庫県の社会構造も大きく変化する。兵庫県将来構想研究会による県内の人口は、平成 21 (2009) 年 560 万人をピークに減少に転じ、令和 32 (2050) 年には人口は 423 万人まで減少 (平成 21 (2009) 年比 75.5%) し、65 歳以上は 171 万人、兵庫県の人口に対する割合は 40.4%に達し高齢化が進む。また、合計特殊出生率は昭和 50 (1975) 年に人口置換水準 2.07 を下回り、令和元 (2019) 年には 1.41 となり、加えて未婚化での出生数の減少や高齢化による死亡数増加により全ての地域で人口が減少する局面に入っている。【資料 2】

(3) 大都市での看護職員の需給推計

厚生労働省の道府県別の看護職員の需給推計では、大都市部などでは需要数が供給数を上回り、近畿 (兵庫県、大阪府、京都府、滋賀県、奈良県、和歌山県) と関東 (東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県) で看護職員が不足するとされている。

【資料 3】

全国的な社会動向の変化や地域による看護職員の偏在が進む中、より少ない人手で効率的に質の高い医療・福祉サービスの提供を実現できるよう、ロボット・AI・ICT 等の先端技術の活用が進んでいる。また、新型コロナウイルス感染症に端を発した生活様式の変化や多様性を認め合いお互いを尊重することを重視する社会構築への転換ニーズも年々高まっている。人生 100 年時代に対応し、一人一人の QOL (生活の質) の向上や生涯現役の就労と社会参加を実現するために、施設や居宅といった場にかかわらず様々なケアが必要とされている。そのため看護領域における高度な知識技術を有する人材育成や人材養成に携わる博士の学位を有する教育・研究者の育成は喫緊の課題であり、本学はこの課題に寄与できると思慮する。

②中長期的な入学者対象人口の全国的、地域的動向の分析

(1) 全国の博士後期課程への入学志願者の動向

日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学入学志願動向」(系統区分保健系のうち看護学研究科)によれば、全国の私立大学大学院の看護学研究科博士課程及び博士後期課程への志願者は、平成30(2018)年度、入学定員109人に対して136人、入学定員に対する志願者数の割合は124.8%であった。しかし、令和5(2023)年度は、入学定員140人に対して志願者数113人、入学定員に対する志願者数の割合は80.7%となっている。平成30(2018)年度と令和5(2023)年度と比較すると、入学定員は31人増加しているが、志願者数は23人減となっている。【資料4】

(2) 近畿の博士後期課程への入学志願者の動向

本学看護学研究科が置かれる近畿の私立大学院は、兵庫県7校、大阪府3校、京都府2校の合計12校が設置されている。12校全体では、令和元(2019)年度の入学定員26人に対して志願者数47人、入学定員に対する志願者数の割合180.8%であったが、令和5(2023)年度は、入学定員40人に対して志願者数は30人となり、入学定員に対する志願者数の割合は75.0%となっている。令和元(2019)年度と令和5(2023)年度と比較すると、入学定員は14人増加しているが、志願者数は17人減となっている。【資料5】

(3) 看護系養成校の増加による影響

①看護系養成校の増加

看護専門職者の育成を目的とする大学等の開設は増加の一途を辿っている。大学・短期大学・養成所別の看護師学校養成所(3年課程)施設数の推移では、令和4(2022)年度大学303校、短期大学14校、養成所543校、合計860校となり、看護師等学校養成所施設数(看護師(3年課程 大学・短期大学含む)、保健師・助産師(大学・大学院・大学専攻科・短大専攻科含む))も増加している。【資料6】

②看護教員の状況

日本看護系大学協議会 看護系大学に関する実態調査では、学校数の増加に伴い、看護系学部の看護教員は、平成30(2018)年度8,601人、令和4(2022)年度9,120人となっており519人増加(106.0%伸張)している。一方、大学の看護教員の未充足数は平成30(2018)年度259人、令和4(2022)年度302人と43人不足(116.6%伸張)している。

また、全国の看護系大学院の専任の教員については、看護教員で大学院専任教員は、平成30(2018)年度3,275人のうち584人(17.8%)、令和4(2022)年度3,913人のうち717人(18.3%)となっており133人増加(122.8%伸張)している。看護教員以外での大学院専任教員は、平成30(2018)年度946人のうち192人(20.3%)、令和4(2022)

年度 1,235 人のうち 277 人 (22.4%) となっており、85 人増加 (144.3%伸張) している。

【資料 7】

一方、一般社団法人 日本看護系大学協議会(2022 年 3 月)の 2021 年度事業活動報告書では、過去 6 年間に当該年度の 4 月 1 日時点で看護教員の充足状況を調査したところ、国・公・私立大学 203 の設置主体のうち 80.8%が定員を満たしていないと回答しており、恒常的に看護教員の不足が報告されている。

看護系大学の増加に伴い看護教員が必要になるが、恒常的に看護教員の未充足が続いており、看護教員の大学院専任教員の割合もここ数年あまり伸張していない。また、博士後期課程の入学定員数は増加しているが、全国的に志願者数の減少傾向が続いている。このような厳しい環境下であるが、学部教育と大学院教育を担当できる博士の学位を有する看護学の教育者・研究者の育成は重要であり、本学は寄与できると思慮している。

③新設組織の主な学生募集地域

(1) 本学の主な学生募集地域

本学の主な学生募集地域は、兵庫県及び大阪府を中心に近畿全域としている。本学が位置する神戸キャンパスは、公共交通機関で大阪駅から 40 分、京都駅から 70 分に位置しており、約 1 時間程度で移動できる範囲内に兵庫県では 270 病院 (兵庫県ホームページ 兵庫県健康福祉部健康局医務課 令和 5 (2023) 年 4 月 1 日現在 医療法上の病院のみ 兵庫県北部及び淡路島の病院を除く) があり、在籍看護師数は 47,364 人(兵庫県ホームページ令和 2 年 12 月 31 日)となっている。隣接する大阪府には 509 病院 (令和 3 (2021) 年 10 月 1 日 厚生労働省「医療施設動態調査」) があり、在籍看護師数は 84,826 人 (令和 2 (2020) 年末 厚生労働省 令和 2 年衛生行政報告例 (就業医療関係者) の概況) となっており、合計で約 13 万人の看護師が存在し、そのうち修士の学位を保有する看護師が、博士後期課程に進学する可能性がある。

(2) 本学看護学研究科修士課程入学者の出身地域

本学看護学研究科修士課程の過年度修了生 89 人の在学時の勤務先は、兵庫県 59 人 (66.3%)、大阪府 21 人 (23.6%)、奈良県 2 人、滋賀県 2 人、京都府 1 人、高知県 1 人、福岡県 1 人、東京都 2 人で、近畿からの入学者が 95.5%を占めている。【資料 8】

(3) 兵庫県の私立大学院博士後期課程の入学定員充足状況

本学が博士後期課程を置く、兵庫県の私立大学大学院は 7 校ある。入学定員充足状況は、令和元(2019)年度の 173.3%以降右肩下がりで、令和 3(2021)年度 91.30%、令和 4(2022)年度 78.30%、令和 5 (2023) 年度 73.90%となっている 【資料 5】

(4) 全国の保健系(大学院)博士課程及び博士後期課程の入学定員充足状況

全国の保健系(大学院)博士課程及び博士後期課程の入学定員充足状況は、平成 30(2018)年度の 100%以降下降し、令和 5(2023)年度には 63.57%となり、近年定員を充足できていない状況が続いている。【資料 4】【別紙 1】

全国的に入学定員数を下回る状況が続いているが、本学の博士後期課程の学生募集の基礎となる看護学研究科修士課程の出身地域は、本学がある兵庫県と隣接する大阪府が多いことから、両府県を中心とした近畿圏を募集活動として展開する。

(3) 学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

(ア) 既設組織における取組とその目標

(1) 看護学部を取組みとその目標

看護学部では、入学定員 100 人の入学を目標に、各種学生募集活動を行っている。

①ホームページ

募集要項は、4 月～5 月頃にホームページに公開し、看護学部のホームページの月平均アクセス数は約 3,800 件である。

②進学情報誌

年間約 50 誌に学部の概要・特色や入試関連情報を掲載している。

③高校訪問

募集活動の一環である高校訪問は、例年 6 月～7 月、9 月、2 月～3 月に行っている。昨年度の訪問校数は 530 校である。

④オープンキャンパス

オープンキャンパスは、毎年 6 月 2 回、8 月 4 回、3 月 1 回の計 7 回実施している。昨年度の実績では、約 1,200 人が参加し、WEB オープンキャンパスは全学部で約 200 人が参加した。

⑤進学相談会

進学相談会は、全学部対象として年間約 50 回実施している。昨年度の実績では、約 800 人が参加し、高校内で実施するガイダンスでは約 100 回、延べ約 1,300 人が参加した。

⑥本学内の大学見学会

高等学校からの要望に応じて、年間 10 回程度実施し、約 100 人の参加実績がある。

⑦ 高大連携

高等学校 25 校と高大連携の実施を目的に高大連携協定を締結し、高大連携協議会を年 2 回実施（5 月、10 月）している。また、高校生を対象に高大連携プログラムを実施し、昨年度は職業理解プログラムに 50 人、看護学部プログラムに 67 人が参加した。

⑧ PR 活動の実績

看護学部の PR 実績は、別紙 2 に示す通りである。新型コロナウイルスの影響により、令和 3（2021）度のオープンキャンパスは WEB で実施し、令和 4 年（2022）度は対面形式で実施した。両年度での比較では、オープンキャンパス参加者のうち受験対象者は 1.36 倍、受験者数は 1.22 倍、入学者数は 1.23 倍と増加しており、対面形式での実施が効果的であることが明確になった。看護学部入学者のうち、資料請求者の入学率は 60%以上と高く、資料請求に導くための PR 活動が欠かせないことが改めて確認された。【別紙 2】

（2）看護学研究科修士課程（博士前期課程）の取組みとその目標

看護学研究科修士課程（博士前期課程）では、入学定員 8 人の入学を目標に、ホームページ、DM、メールでの情報発信、オープンキャンパス等での個別相談を中心に行っている。

① ホームページ

5 月中旬には、大学院生の募集要項及び 9 月と 1 月に試験を行うことをホームページに公開している。看護学研究科のホームページのアクセス数は月平均約 500 件である。

② DM

DM は 6 月中旬に約 500 通を近畿圏の大学、短期大学、専門学校、病院、学部学生の就職先の病院、実習先施設、職業実践力育成プログラム（BP）修了生やその勤務先等に送付している。また、看護学部卒業生、BP 受講生・修了生にメールで案内し、進学の意味がある場合は個別相談に応じている。

③ オープンキャンパス

例年 6 月に実施しているオープンキャンパスでは、看護学研究科の概要を説明し、入試対策として英語の講義、修了生や在学生との交流、キャンパスツアー、教員との個別相談を行っている。令和 3（2021）年度から令和 5（2023）年度の 3 年間の本学の看護学研究科のオープンキャンパスのアンケート（参加者 33 人、アンケート回収数 27 人、回収率 82% 複数回答可）では、本学のホームページと本学からの案内メールによりオープンキャンパスの開催を知ったと回答している。また、オープンキャンパスの参加理由としては、本学修士課程への進学を考えている（19 人 57.6%）、他大学含めて進学を考えている（9 人 27.3%）、入試対策として参加（10 人 30.3%）となっており、オープンキャンパスの参加者の進学意欲は非常に高いことが窺える。進学に際して重視する項目は、仕事等との両立（24 人 72.7%）、指導教員の人柄（16 人 48.5%）、学費（16 人 48.5%）、指導教員の研究内容（15 人 45.5%）、カリキュラムの内容（13 人 39.4%）、大学の立地・アクセスの良さ（8 人 34.2%）となっている。また、自由記述では、指導教員との情報交

換や仕事との両立について具体的なイメージを得たこと等で、オープンキャンパスの参加により進学意欲が高まったと答えている。【資料9】

④PR活動の実績

看護学研究科のPR活動の実績は、別紙2に示す通りである。看護学研究科修士課程のオープンキャンパスは看護学部と同様の形式で実施した。新型コロナウイルスの影響により、令和3年度(2021年度)はWEB開催となったが、令和4年度は対面形式で実施した結果、参加者が1人から14人と増加し、そのうち受験者は前年の1人から8人へと顕著な伸びを示した。対面形式でのオープンキャンパスにより、仕事との両立や進学に対しての疑問点や不安感などの解消につながったと推測する。また、周知活動としてはホームページでの情報発信に加えて、DMの発送などを実施している。【別紙2】

(3) 看護学部、看護学研究科修士課程(博士前期課程)の学生確保に関する目標

看護学部は、従前の学生募集活動を継続し、入学定員充足率を維持すること目標とする。看護学研究科修士課程(博士前期課程)は、既存の学生募集を継続しつつ、ホームページでの情報発信を強化し、毎年継続的に志願者数が入学定員以上確保することを目標とする。

(イ) 新設組織における取組とその目標

看護学研究科博士後期課程では、入学定員2人の入学を確保するために、修士課程(博士前期課程)で実施した各種施策を博士後期課程でも展開する。

①ホームページでの周知

・開設1年目

博士後期課程を設置したことを周知することに重点を置き、情報開示する。大学のホームページのトップページに博士後期課程設置をアピールするバナーを設置し、看護学研究科のページに誘導する。

博士後期課程の特徴である「看護実践開発科学分野」の特徴を明示するとともに、カリキュラム、修学方法、修学上の不安や疑問を解消するようなコンテンツ(FAQ等)により、進学意欲を喚起する。特に、オープンキャンパス参加者からのアンケート回答における上位項目の「仕事等との両立」「指導教員の人柄」「指導教員の研究内容」「学費」「カリキュラムの内容」「大学の立地・アクセスの良さ」についての情報を頻繁に配信する。

・開設2・3年目

在学生の活動や入学前の不安などが、実際に入学してどうであったかなどの情報を発信する。仕事との両立や指導教員との関係、教育環境など実体験を交えて情報発信し、今後入学を検討する進学希望者にとって有益な情報を届ける。

②オープンキャンパスの実施

- ・ホームページによる実施開催案内を情報発信（4月）
- ・本学の修士課程の修了生には、メール等でオープンキャンパスの開催を案内(4月)
- ・兵庫県や大阪府の病院や実習先などには、オープンキャンパス開催案内を送り、(4月)進学希望者のオープンキャンパスへの参加を促す。
- ・遠方の方や当日参加が難しい場合は、個別対応する。場合によっては、WEBによるオンライン対応も行う。
- ・実施内容は、進学説明会（全体スケジュール、募集要項などの説明）、教育課程の説明（博士後期課程、学修内容等の説明）、教員との個別相談、キャンパスツアーの実施を予定している。

③本学附属病院勤務の看護師に対する進学説明会の実施

- ・院内で進学説明会を開催（7月）

④進学希望者対応

- ・本学附属病院勤務進学希望者及び学外からの進学希望者については、8月以降、随時相談を受け付け、入学後の学修内容や学修環境の説明とともに、仕事と両立できるよう事前に相談しながら入学後に齟齬が生じないようにする。

⑤ホームカミングデイ対応

- ・本学の看護学部卒業生に対しては、ホームカミングデイを毎年10月に開催しており、その際に修士課程（博士前期課程）と博士後期課程の教育課程、学修内容等を周知する。ホームカミングデイに参加できない卒業生に対しては、同窓会の協力を得て実施内容を伝える。

⑥キャリアデザインセンターでの対応

- ・看護学部生の就職先の病院や企業の採用担当者などが5～7月を中心に本学のキャリアデザインセンターを訪問することから、博士後期課程の設置について周知する。

⑦広報誌での情報発信

- ・学校法人兵庫医科大学の広報誌に博士後期課程の設置記事を掲載する。
また、看護学部卒業生に対して、別途チラシ等で博士後期課程の情報発信を行う。

(ウ) 当該取組の実績分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

オープンキャンパスの参加者及び進学説明会の参加者へのフォローを行い、最終的な入学想定人数を2人としている。

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

（ア）競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

○競合校の選定理由

本学との競合校は、専攻、定員規模、授業料、立地、受験者特性（看護系の修士課程（博士前期課程）を修了した者で仕事と学業の両立を目指す者）から、近畿の大学院で看護系博士後期課程を設置している私立12校が競合校であるとした。

○競合校との比較分析

①教育面での特徴

本学博士後期課程は「看護実践開発科学分野」を設置し、看護学の専門的知識と技術に立脚し、看護現象を科学的に解明する教育・研究能力をもって看護の場を変革できる人材を育成することを目的としている。そのために、研究成果を看護ケアに実装化し変革力を有する看護実践者、研究者、教育者として、グローバルかつ学際的な視点から施設やコミュニティにおける看護実践に関する課題を見出し、看護学及び関連領域の諸理論やエビデンスから分析を深め、看護実践の場において看護職者を含む医療専門職者及び看護研究者と連携・協働し、看護ケアを創生・発信できる能力を育成することを教育目標として掲げている。

②立地の比較

競合12校の立地は、兵庫県中・西部（三木市、赤穂市、姫路市、加古川市）4校、南東部（神戸市、西宮市）3校、大阪府東部（高槻市、枚方市、羽曳野市）3校、京都府南部（京都市、京田辺市）2校である。競合校は各都市に分散しており、利便性は良い。本学は兵庫県南東部（神戸市）に位置し、兵庫県南部の各都市や大阪府各都市からの利便性は良い。

・競合校と比較し立地上の優位性は特段見当たらない。【資料10】

③学生納付金、修学支援の比較

競合校の学費（授業料+教育施設充実費）は、年間90万円～50万円、平均約67.8万円となっている。入学金20万円としている大学が多い。本学は入学金を10万円、学費60万円（授業料50万円、教育施設充実費10万円）とし、入学金は一番低く設定し、学費は平均をやや下回る金額に設定している。【資料11】

学校法人兵庫医科大学の教職員、兵庫医科大学（旧兵庫医療大学を含む）卒業生または大学院修了生には、入学金全額免除制度を設けることとし、経済的負担軽減措置を講じる。【資料12】

・本学は学生納付金や経済的支援面で優位性がある。

④入試(受験時期等)

競合 12 校の入試の時期は、第 1 期 9・10 月、第 2 期 1・2 月に集中し、試験内容は主に英語・専門科目・面接を実施している。本学は第 1 期を 9 月、第 2 期を 1 月とし、試験内容は英語、面接（プレゼンテーション、口頭試問を含む）としている。

・入試に関しては競合校と類似している。

(イ) 競合校の入学志願動向等

令和 5（2023）年度、近畿の競合 12 校の総入学定員は 40 人(1 校当たりの入学定員は平均 3.3 人)、総収容定員は 117 人(1 校当たりの収容定員は平均 9.8 人)となっている。

競合校全体の入学定員に対する志願者数割合は、令和元(2019)年度 180.8%から 160.5%、117.5%、107.5%と年々低下し、令和 5（2023）年度は 75.0%となっている。入学定員充足率は、令和元（2019）年度 142.3%から 123.7%、90.0%、70.0%と低下し、令和 5（2023）年度は 72.5%となっている。入学定員未充足校は、令和元（2019）年度 0 校から 3 校、5 校、8 校、令和 5（2023）年度は 6 校となり、近年半数の看護学研究科博士後期課程の入学定員が未充足となっている。【資料 5】

(ウ) 新設組織において定員を充足できる根拠等

本学の入学定員は、近年の志願者減少傾向の中、長期的に継続して入学者を確保すること、教育研究指導を充実したものとすることを考慮し、入学定員を 2 人としている。(近畿の平均の入学定員 3.3 人)。また、入学金は競合 12 校と比較し一番低く設定し、学納金は平均をやや下回り、経済的に優位性を確保している。立地は兵庫県・大阪府内の主要都市から十分通学できる環境にある。前述した広報活動や本学の柱となる分野の特徴等を積極的に広報することにより定員を充足できると判断している。

(エ) 学生納付金等の金額設定の理由

本学は、入学金 10 万円、授業料 50 万円、教育充実費 10 万円とし、初年度 70 万円、2 年以降の授業料等の学費を 60 万円と設定した。

日本看護系大学協議会 データベース委員会資料より（2020 年度状況調査）によると、全国私立大学の私立看護系大学院博士後期課程の平均は、入学金 262,950 円、授業料 709,781 円、教育充実費 308,668 円、その他 80,927 円となり、入学金を除く授業料等の学費平均は、1,271,059 円となっている。【資料 13】

近畿の私立 12 校の入学金の設定幅は 18～20 万円、平均 20.5 万円、授業料の設定幅は 38～90 万円、平均 53 万円、教育充実費の設定幅は 0～25 万円、平均 14.8 万円となり、入学

金を除く学費の平均は 678,317 円となっている。【資料 11】

本学の入学金は、近畿の競合校と比較し一番低く設定し、学費は平均を下回る金額とし、経済的優位性がある学生学納金としている。

③先行事例分析

先行事例の該当はありません。

④学生確保に関するアンケート調査

(1) 学生確保に関するアンケート調査結果

兵庫医科大学大学院看護学研究科博士後期課程の設置計画を進めるに当たり、令和 5 (2022) 年 2 月～5 月でアンケート調査を実施した。【資料 14】

本学看護学研究科修士課程修了者、在籍者及び本学看護学部教員及び卒業生に対してはメールで調査案内を発信し、本学附属病院看護部職員には学内便でアンケート回答を依頼、近畿圏の看護師養成課程を有する大学及び専門学校 159 施設と近畿圏の病院施設等 371 施設には、郵送でアンケート回答依頼を発送した。

有効回答数は、本法人看護部職員 272 件、本学教員・大学院生 14 件、本学看護学研究科修士課程修了者 16 件、本学看護学部卒業生 20 件、他施設勤務者 66 件の合計 388 件であった。

◆クロス集計結果

卒業後の進路、進学を希望する大学等の設置者（国立、公立、私立）、興味のある学問分野、本学大学院博士後期課程の受験希望（第 1 志望であること）及び合格した場合の入学希望についてのクロス集計の結果、13 人が条件に該当した。

内訳は、看護職者としての勤務年数 15～19 年が 4 人、20 年以上が 7 人の計 11 人(84.6%)、修士課程修了者は 10 人(76.9%)、教員としての勤務経験なしは 7 人(53.8%)であった。志望理由は、該当者の所属先が病院等半数以上を占めることもあるが、「学位を取得しキャリアアップを図りたい」、「臨床現場で活かせる高度な知識を身に付けたい」、「将来、臨床の現場の指導者、指導的役割を担いたい」と回答している。臨床現場で十分経験を積み、次のステップに進む機会として博士後期課程を検討していることが窺える。

進学先を選択する際に重視することは、「学費、奨学金制度等」「開講時間・曜日」「教育内容(カリキュラム内容)」が多く、看護師として仕事と就学との両立、経済的支援や進路志望と合致した教育内容を重視している。

入学希望時期は、開設時（令和 7 (2025) 年度）8 人、令和 9 (2027) 年度 1 人、時期未定は 4 人となり、条件が整えば早期に進学したいと考えている方が多い。

本学への第2志望以降もクロス集計を行った。結果10名が条件に該当し、凡その傾向は第1志望と同じであったが、該当者の所属先が大学教員40%であったことから「学位を取得しキャリアアップを図りたい」に次いで「将来、教育者、研究者になりたい」が多かった。

進学先を選択する際に重視することは、「開講時間・曜日」「立地」「学費、奨学金制度等」「教育内容(カリキュラム内容)」の順となっており、第1志望者との順位は異なるが、第1志望者と同様、看護師として仕事と就学との両立、経済的支援や進路志望と合致した教育内容を重視している。

入学希望時期は、開設時(令和7(2025)年度)2人、令和9(2027)年度2人、令和10(2028)年度1人、時期未定は5人となり、やや幅広い入学時期となっている。

■アンケート調査の結果

本学への志望者が一定程度存在し、進学的意思を固める際には、仕事と就学が両立し、かつ、経済的支援や教育内容が充実している場合が高いと推測できる。また、現在の職場環境の中でキャリアアップを図り、一段上のステージで活躍したいと考えていることが分かった。

今後、「教育内容(カリキュラム)」「開講時間・曜日」「学費・奨学金制度」「実施可能な研究内容」をホームページなどで広報し、オープンキャンパスなど個別相談を活用して、志願者の個別事情を理解し対応することで人材の確保ができると考えている。

なお、アンケート調査実施時には、入学金を20万円としていたが、全国的な志願者動向や進学先を選択する際に経済的支援を重視していることが判明したこと、競合校との差別化の観点から、最終的に入学金は10万円とした。

⑤人材需要に関するアンケート調査等

(1) 採用意向に関するアンケート調査結果

兵庫医科大学大学院看護学研究科博士後期課程の設置計画を進めるに当たり、令和5(2023)年5月～6月でアンケート調査を実施した。【資料15】

調査は、看護師養成課程を有する大学・専門学校248施設、大学病院15施設、兵庫県内の病院や本学大学院修士課程卒業生の就職先361施設や兵庫県各市の市役所及び大阪市役所30施設の計654施設に依頼し、76施設から回答を得た。業種別では、病院・診療所40件(52.6%)、大学16件(21.1%)、専門学校15件(19.7%)、行政機関5件(6.6%)である。

博士後期課程を養成する人材の必要性は、74施設(97.4%)が「とても必要」「ある程度必要」としており、本学が養成した人材の採用については、32施設(42.1%)が「採用したい」と回答している。採用可能人数は、毎年12～17施設で30人前後となっており、需要

が継続的にあることが確認できた。

業種別の採用可能人数は、各年度とも病院・診療所で約 24 人前後、大学で 3～8 人、専門学校で 1～3 人の採用が可能とした結果となっている。

また、看護師や教員等を博士後期課程で学ばせるための意向調査では、「現職のまま進学・入学させたい」が 8 件（10.5%）、「進学・入学を推奨するが、本人の意思に任せる」とした回答が 33 件（43.4%）を占め、半数弱の施設等が進学への理解を示している。

■採用意向に関するアンケート調査の結果

本学の博士後期課程による人材育成は必要であり、課程を修了した人材については、4 割程度の施設が採用したいとし、病院・診療所、大学、専門学校で毎年一定程度の採用が可能であると回答している。

本学の看護学研究科修士課程（博士前期課程）の在籍者は、看護職員として勤務しながら修士課程を修了していることから、今後、博士後期課程に入学する方も同様に仕事と就学を両立させ、修了後も多くは、勤務先で勤務を継続すると推測している。

（４）新設組織の定員設定の理由

看護学研究科博士後期課程の入学定員は、本学教員組織の規模、全国及び近畿での大学院の入学志願者状況や入学定員充足状況、近隣病院等の修士課程修了者への博士後期課程入学意向調査や採用意向調査の結果をもとに、長期的かつ安定的に学生を確保できる適正な規模として、また、本学の教員組織において充実した教育が実現可能であると総合的に判断し、入学定員は 2 人とした。